

新役員体制で市長、知事、市議会議長らを表敬訪問

当JAの新役員体制が始まり、新しい常勤役員が関係各所を表敬訪問しました。

7月5日(月)に鈴木雄大潟上市長と菅原広二男鹿市長を、7日(水)に穂積志秋田市長と秋田市議会の岩谷政良議長、熊谷重隆副議長を訪れ、コロナ禍での生産振興や農畜産物のブランド化、農地集積など、管内農業について幅広く意見を交わしました。

15日(木)には佐竹敬久知事と県農林水産部を訪問し、管内の直売所や「サキホコレ」、災害対策などの話題が上がりました。

新体制でも行政などとの連携を密にして、管内農業の維持発展に努めていきます。

- 1 鈴木潟上市長と当JA役員
- 2 菅原男鹿市長らと当JA役員
- 3 穂積秋田市長と当JA役員
- 4 岩谷議長、熊谷副議長と当JA役員
- 5 佐竹知事と知事室にて



1



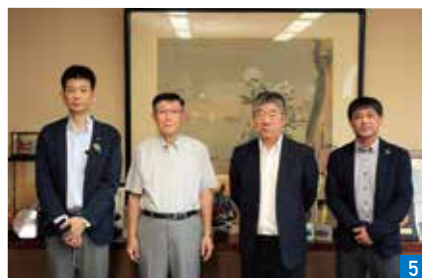
2



3



4



5

NEWS & TOPICS

「わかみメロン」出荷がたけなわ

今年度の「わかみメロン」の出荷が6月30日(水)に始まり、7月5日(月)から本格化しました。8日(木)からは弘戸ライスセンターの敷地内に直売所が期間限定でオープンし、県内各地から「わかみメロン」を買い求める人々にぎわいました。

12日(月)に野石集出荷所で開かれた「わかみメロン」の目揃え会では、生産者や市場関係者ら約30名が出荷規格や他産地の動向などを確かめました。当JAメロン部会の蓬田富美雄部会長は「若採りすることなく、品質の高いメロンを出荷するよう心掛けてほしい。おいしいメロンを消費者に届けて、特産としてのブランドを守っていききたい」と呼び掛けました。

枝豆の出荷開始

令和3年度産の枝豆が収穫期を迎え、7月19日(月)から秋田市雄和の園芸集出荷施設で共同選別が始まりました。今年度も横浜、大阪、名古屋といった県外市場や秋田市場に出荷され、販売額1億円の安定化を目指します。

21日(水)には目揃え会と研修会が雄和支店で開催、生産者ら約30名が他産地の荷動きや調製作業を確認しました。秋田地区営農センターの担当者は「皮が薄くなって変色する恐れがあるため、洗浄機での洗いに注意。カビ防止のため、脱水もしっかり行ってほしい」と呼び掛けました。(株)高井南茄園の金野豊秋常務を講師に、ダイズシストセンチュウの対策も学びました。

目揃え会で等級基準を確認する生産者ら



今年度の稼働を始めた枝豆の選別機

